

職業教育学校「オムニア」

～保育・介護共通資格制度(ラヒホイタヤ)～

報告者:磯野 勝

1. 概要

- 職業教育学校「オムニア」は、2006年に周辺の4つの専門学校が合併して設置された。
- 同校では、約6,000人の生徒が学び、7つのコース、造園、建築、IT、美容、ケータリングなど50種以上の資格が認定される。

2. 説明者

シリア ハッシネン 氏



Ms Sirje Hassinen (TBC)

3. 主な説明内容

- オムニアの概要について

フィンランドの教育システムは、就学前教育(6歳まで)と義務教育(7歳-16歳)が基礎にあり、その後は高校に進学するか、オムニアのような職業教育学校に進学するか、

選択することができる。

また、職業教育学校では義務教育を修了した若者だけでなく、社会人や退職者なども自らの知識や技術の向上を目指して学んでいる。最近は半分以上が職業訓練校に来るようになっている。

ここでは7つのコースがあり、造園、建築、IT、美容、ケータリングなど、50種以上の資格が認定される。それぞれ半年間の現場実習 (on the job learning) を課している。



エスポー市にあるオムニア

この学校で特に大切にするのは成果。どれだけの事が出来るようになるかを大事にしている。つまりテストよりも、何を学んだかを重視している。

また、特定の科目についてどれだけの時間を費やして学んだかよりも、どれだけの技量がついたかを重視している。

➤ 保育・介護共通資格制度 (ラヒホイタヤ) について

ラヒホイタヤはヘルパーや准看護師、保育士、リハビリ助手など計10の資格を一本化した資格である。福祉や介護に従事する職員を確保する必要性から生まれ、1人で複数の分野を掛け持ちできる職員を福祉の現場に配置し、柔軟に対応できるようにしている。

これにより、無資格の不安定な低階層の職種がなくなり従来のホームヘルパーの質の向上、介護人材の離職者減少、質の高い労働で短時間・高賃金の労働が可能になる等の利点がある。

また、ラヒホイタヤ修了者は保育園で働いた後に高齢者のホームヘルパーとして働いたり、精神障害者施設でも働くことが可能としており、福祉従事者の人材確保の有効な制度である。

住民も移民に対しても授業料は無償である。だれでも教育を受ける権利を有している。



継続的な訓練 (OJL) についてレクチャーをしていただいたペトラ先生

4. 主な質疑

(授業を受けている生徒に対して)

○ 目指している職業について
→ 介護、保育それぞれ半々（挙手による回答）

○ 同校の移民の生徒の割合について
→ 約15%が移民である。また、約80カ国の国から学びに来ている

○ 授業の使用言語について
→ 英語とフィンランド語で行っている。



多くの国から学びに来られている英語の授業を見学

5. 所感

資格取得者のメリットは、一人で子育てから介護サービスまで提供できることにより、我が国での過疎化が進む地方の人手不足問題に貢献できるという点。さらに、資格取得のために幅広い知識を得ることで多角的な視点から業務にあたることができる。

さらに子育てから介護まで幅広い分野で働くことができ、求人も多いため、生涯仕事を続けられる可能性がある。

一方、デメリットは専門性の希薄化、資格取得や業務の負担増、などが挙げられる。

一定の知識や実務経験に加えて、さらに別分野の知識や実務経験が問われると資格取得のハードルが高くなり、人手不足の解消になるどころか、資格取得希望者が減ってしまう可能性も考えられる。

よって、ラヒホイタヤ制度を我が国に取り入れる場合は、日本特有の介護、保育のニーズにきっちりと応えられるかどうかの検証をすべきであると感じた。

